

ACUPUNCTURE AND MOXIBUSTION NEEDLE

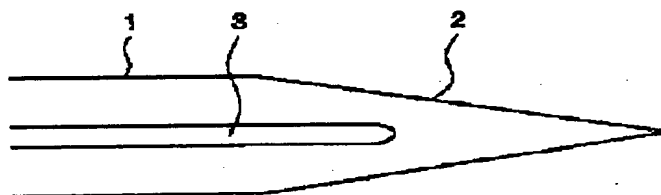
Patent number: JP2003116962
Publication date: 2003-04-22
Inventor: ITO DAISUKE
Applicant: SEIRIN KK
Classification:
- international: **A61B5/15; A61H39/08; A61J1/05; A61B5/15; A61H39/00; A61J1/05;**
(IPC1-7): A61H39/08; A61B5/15; A61J1/05
- european:
Application number: JP20010314018 20011011
Priority number(s): JP20010314018 20011011

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2003116962

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an acupuncture and moxibustion needle which is usable for slight bleeding for a specimen and percutaneous administration of medicines in addition to the indications and effects of an ordinary acupuncture and moxibustion needle.

SOLUTION: This acupuncture and moxibustion needle is provided with a groove 3 of 1 to 60 μ m in width and in depth approximately parallel to the axis of a needle body 1 on the surface of the needle body 1.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-116962

(P2003-116962A)

(43) 公開日 平成15年4月22日 (2003.4.22)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 6 1 H 39/08		A 6 1 H 39/08	B 4 C 0 3 8 Z 4 C 1 0 1
A 6 1 B 5/15		A 6 1 J 1/00	3 1 3 N 3 1 3 M
A 6 1 J 1/05		A 6 1 B 5/14	3 0 0 J
審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 3 頁)			

(21) 出願番号 特願2001-314018(P2001-314018)

(22) 出願日 平成13年10月11日 (2001.10.11)

(71) 出願人 390024545

セイリン株式会社

静岡県清水市袖師町1007番地の1

(72) 発明者 伊東 大介

静岡県清水市袖師町1007番地1 セイリン
株式会社内

(74) 代理人 100078330

弁理士 笹島 富二雄 (外1名)

Fターム(参考) 4C038 TA05 UH04

4C101 DA01 DA11 DA12 DA16 EA10

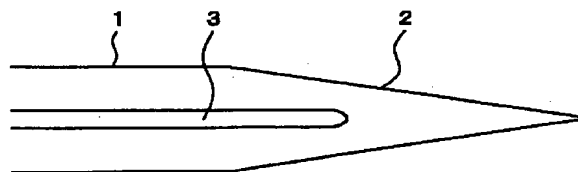
EB14

(54) 【発明の名称】 鍼灸針

(57) 【要約】

【課題】 通常の鍼灸針の効能効果に加えて、微少採血や、医薬品の経皮的投与に用いることができる鍼灸針を提供する。

【解決手段】 針体1の表面に、幅1~60μm、深さ1~60μmの溝3を、針体1の軸線と略平行に設ける構成とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】鍼灸針の表面に、幅1～60 μ m、深さ1～60 μ mの溝を、針の軸線と略平行に設けたことを特徴とする鍼灸針。

【請求項2】前記溝は、採血用であることを特徴とする請求項1記載の鍼灸針。

【請求項3】前記溝は、医薬品の保持用であることを特徴とする請求項1記載の鍼灸針。

【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】本発明は、鍼灸治療に用いる鍼灸針に関する。

【従来の技術】従来、鍼灸針は、単なるワイヤーの、先端を尖らせたものであって、それを体内に刺入することによる刺激で効能効果を期待するものであった。

【発明が解決しようとする課題】本発明では、通常の鍼灸針の効能効果に加えて、微少採血や、医薬品（薬剤）の経皮的投与に用いることができる鍼灸針を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】このため、本発明では、鍼灸針の表面に、幅1～60 μ m、深さ1～60 μ mの溝を、針の軸線と略平行に設ける構成とする。

【発明の効果】本発明によれば、上記の溝付きの鍼灸針を、そのまま血管に刺入することで、微少採血を行ったり、予め上記の溝に医薬品を保持させてから刺入することで、医薬品の経皮的投与を行うことができる。

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明の一実施形態を示す鍼灸針の針先部付近の正面図、図2は同上の平面図、図3は同上の断面図である。図1～図3を参照し、針体1の先端部に先細の針先部2が形成されており、この針先部2側の針体1の表面に、溝3を、針体1の軸線と平行に設けてある。この溝3の幅Wは1～60 μ m（より望ましくは1～40 μ m）の範囲、深さDは1～60 μ m（より望ましくは5～60 μ m）の範囲とする。尚、針体1の直径は0.1～0.5mm程度である。すなわち、鍼灸針としての刺入に影響はなく、微少採血や、医薬品の保持の目的にあった溝3を針体1に刻設してある。溝3は複数設けてもよく、その数に特に制限はな

＊い。このような溝3付きの鍼灸針を用いて、微少採血を行う場合は、そのまま血管に刺入し、引き抜くだけで、溝3内に血液を採取できる。従って、糖尿病患者などが微少採血を行うことが容易となる。医薬品の経皮的投与は、例えば次のようにして行うことができる。製造段階で、溝3付きの鍼灸針を医薬品の溶液に浸け、表面をぬぐって、溝3内にのみ溶液を付着させる。そして、これを凍結乾燥させることで、医薬品付きの針とする。従って、この針を生体に刺入することで、医薬品の経皮的投与を行うことができる。医薬品としては、例えば局所麻酔剤などが考えられる。鍼灸針の全体形状は、図4

（A）に示すように、長い針体1の基端側にプラスチック製の針柄4を一体成形するなどして、通常の鍼灸針としてもよいし、図4（B）に示すように、針体1の基端側を針先部2側と直交する面内にて巻くなどして支持部5を形成し、この支持部5に絆創膏6を取付けて、絆創膏付き円皮針としてもよい。図4（B）に示すような絆創膏付き円皮針として用いれば、24時間連続貼付が可能となり、長時間血中医薬品濃度を一定に保つことができる。尚、医薬品濃度は、刺入する針の本数で調整可能である。すなわち、1本の針から放出される医薬品の量は計算できるから、2本、3本と、身体の適当な場所に針を貼付することにより、血中の医薬品濃度を調整できるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態を示す鍼灸針の針先部付近の正面図

【図2】 同上の平面図

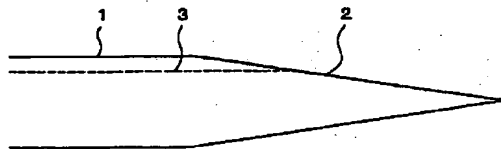
【図3】 同上の断面図

【図4】 鍼灸針の全体構成図

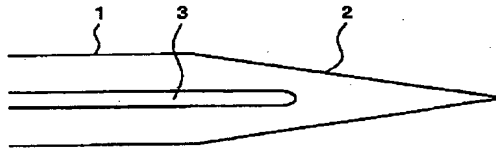
【符号の説明】

- 1 針体
- 2 針先部
- 3 溝
- 4 針柄
- 5 支持部
- 6 絆創膏

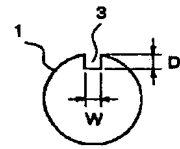
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

